

科目名	国語 I	英文表記	Japanese I	2010年 3月5日		
教員名：網谷 厚子				作成		
対象学科	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
全学科	1年	必修	履修	2単位	講義形式	通年
目 標	1 日本語による基礎的運用能力・表現力を身につかせる 2 古典作品についての素養を身につかせ、伝統文化への興味・関心を深めさせる 3 自らの考え・主張を効果的に表現する能力を習得させる					
高 専 目 標	1. 2. 4	JABEE プログラム名称				
		JABEE プログラム教育目標				
授業概要、 方針、 履修上の注意	1 言葉に関する小テストを年間10回実施する 2 現代文・古文・漢文を同程度に扱う 3 考えを表現する論理的文章(小論文)を2回書かせる					
評 価 方 法	前期：小テスト(50%)・期末考査(50%) 後期：小テスト(50%)・期末考査(50%) 学年末は小テスト(40%)に期末考査(50%)・小論文(10%)を総合してつける。					
教科書・教材	『新国語総合 改訂版』『国語便覧』(京都書房)、 『④～②級漢字の学習』(三省堂)、教員作成資料(パワーポイント、プリント等)					
参 考 図 書	木下是雄著『理科系の作文技術』(中公新書) 他授業中に提示					

授 業 計 画

授 業 項 目	時 間	授 業 内 容
1. 現代文・・・表現することについて	2	教科書・吉野弘「生命は」を理解させ思索を深めさせる。
2. 同上	2	韻文作品を理解し、俳句作品創作を实践させる
3. 自分の在り方・・・「らしさ」について	2	教科書・鷗田清一「らしさ」を理解させ、論理的文章の特徴に気づかせ、簡潔な文章作法学ばせる。
4. 同上	2	現代「課題」となっている事柄について関心をもたせる。
5. 文学作品を理解する・・・「羅生門」	2	「文豪」の人生について理解を深めさせる。
6. 同上	2	時代や言葉の知識を通し、作品の理解を深めさせる。
7. 同上	2	人間の真実に「美しいもの」「醜いもの」があることに気づかせる。
8. 同上	2	極限状況の人間の姿について洞察を深めさせる。
9. 小論文の書き方	2	論理的思考と、説得力ある書き方について学ばせる。
10. 小論文 1回目	2	課題に従って論述させ、論理的文章を实践させる。
11. 日本古典作品の理解・・・韻文学導入	2	古典文学(韻文学)についての素養を身につかせる。
12. 万葉集	2	「うた」の始まりについて理解を深めさせる
13. 古今和歌集	2	和歌の技巧的表現について学ばせる。
14. 新古今和歌集	2	和歌の変遷について素養を深めさせる。
15. 古典文法の理解・・・動詞の活用等	2	古典文法から現代文法への「言葉」の変化に気づかせる。
前期末試験	(1)	以上学んだことの基礎的内容についての確認。
16. 古典作品の理解・・・散文学導入	2	古典文学(散文学)の歴史について知識を深めさせる。
17. 竹取物語	2	「かたり」の始まりについて理解を深めさせる。
18. 伊勢物語	2	「うた」と「かたり」の融合について理解を深めさせる。
19. 徒然草	2	時代と文学の在り方について素養を深めさせる。
20. 漢文の理解・・・漢文訓読の理解	2	漢文の歴史的意義と読み方について理解を深めさせる。

21. 故事 1	2	作品を読解することを通し、普遍的なものの見方について学ばせる。	
22. 故事 2	2	同上	
23. 故事 3	2	同上	
24. 漢詩 1	2	韻律の美しさに気づかせ、普遍的な感性の在り方について学ばせる。	
25. 漢詩 2	2	同上	
26. 漢詩 3	2	同上	
27. 小論文 2 回目	2	課題に従って論述させ、論理的文章を实践させる。	
28. 自己 PR の方法	2	短時間のダッシュ訓練により論理的思考を鍛えさせる。	
29. 四字熟語・文学史 1	2	便覧を活用し基本的言語力を身につけさせ、知識を系統立ててまとめさせる。	
30. 四字熟語・文学史 2	2	同上	
学年末試験	(1)	後期の授業内容を踏まえた達成度の確認。	
学習時間合計	60	実時間	50

学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。（50分＝1、100分＝2）

通年は2ページ、半期は1ページ以内におさめる。